



日頃の備え

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

- 外壁**
 - モルタルの壁に亀裂はありませんか
- 窓**
 - 窓枠のがたつきはありませんか
 - 雨戸のがたつきはありませんか
- 屋根・雨どい**
 - 不安定なアンテナなどはありませんか
 - トタンなどがめくれていませんか
 - 瓦のひび・割れ・はがれなどはありませんか
 - 雨どいにごみや木の葉は溜まっていませんか
- ベランダ**
 - 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか
- 排水溝**
 - 側溝や雨水ますにごみや土砂はありませんか
- ブロック塀・板塀 など**
 - 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか
- その他**
 - ガスボンベは固定していますか
 - 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
 - ごみ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
 - 庭木には添え木をしていますか
 - 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

竜巻・落雷から身を守るために!

近年、竜巻や落雷といった災害が増加傾向です。発生する要因を知り、すみやかに避難できるようにしましょう。

“発達した積乱雲”に注意!

竜巻・落雷とも台風・寒冷前線・低気圧などにより“発達した積乱雲”に伴って発生します。

兆候

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷の音が聞こえてくる
- 急に冷たい風が吹いてくる
- 大粒の雨やひょうが降りだす

竜巻

日本では、平均して年に25個程度の発生が確認されています。一度発生すると家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより短時間で大きな人的・物的被害をもたらすことがあります。



避難のポイント

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 飛散物から身を守るような物陰に身を隠し、頭を抱えとずくまる。
- 窓や扉、部屋の隅や外壁から離れ、頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。

落雷

雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちます。また周囲より高いものほど落ちやすいという特徴があります。



避難のポイント

- 雷鳴が聞こえたら、すぐに建物の中や自動車の中に避難する。
- 避難する建物がない場合は、電柱や木から4m以上離れて、身を低くする。



自助・共助・公助

自助・共助・公助とは

災害に対する予防・応急対応、復旧・復興には、住民のみなさんと行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策に当たることが大切です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効果的な組み合わせが重要です。

- 自助** 「自分の身は自分で守る」
飲料水、食料等の備蓄、防災知識、技術の習得、危険回避のための自主避難など、普段からの災害に対する準備。
- 共助** 「互いに助け合い、被害を減らす」
自主防災組織の結成、活動の促進、訓練への参加、相互協力体制の推進。
- 公助** 行政機関(町、県、国、消防、警察、自衛隊など)の活動。各機関とも災害の発生からできるだけ早く応急対応活動にあたるよう備えています。



自助・共助・公助の連携が必要です

自主防災組織の協力

- **自主防災組織とは**
地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。
- **平常時の活動**
 - ①防災知識の普及啓発
 - ②防災訓練や地域の防災安全点検の実施
 - ③防災資機材の備蓄

- **災害時の活動**
 - ①地域住民への避難の呼びかけ・誘導
 - ②負傷者の救出・救護
 - ③初期消火活動
 - ④避難所の運営

特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。
あなたとあなたの町を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち高取町」を作りあげましょう。

